

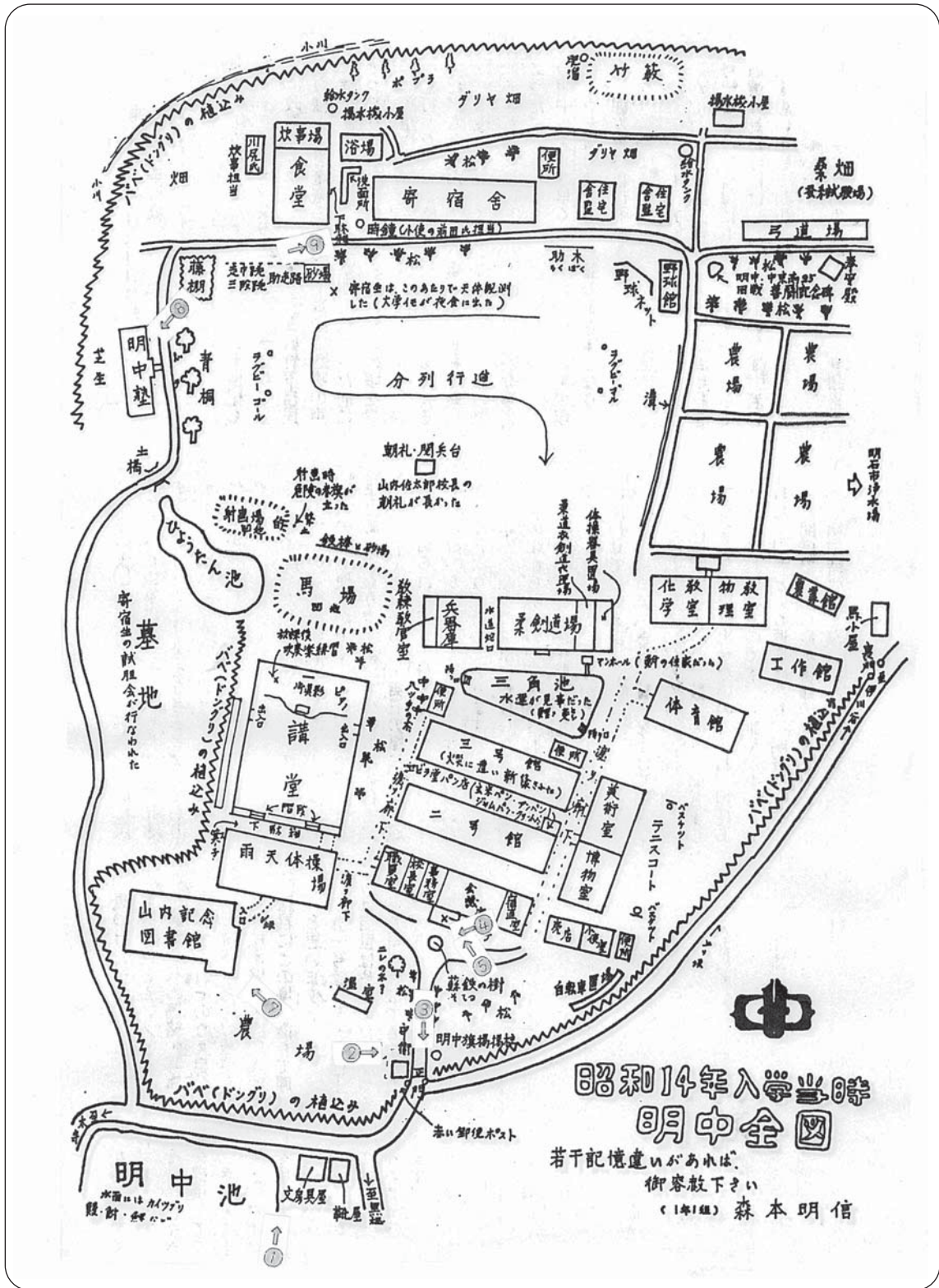
自強会だより

変わらぬ伝統と文化

今も

第22号





昭和14(1939)年ごろの明石中学の全体配置図です。中学17回の故森本明信氏が描かれたもので、母校資料館に保管されていました。戦前の明中の全貌を伝える貴重な資料で、資料館の棚の中に置かれているだけでは余りにももったいないので、今回掲載させていただきました。

仔細に見れば興味深い点が多々あります。運動場が拡張されるずっと前で、北に隣接する浄水場との間には農地があったり、明中池角の川尻屋さんの場所は靴屋さんだったり、その川尻さんは当時食堂の炊事担当で、運動場西の食堂の南におられたようです。

この図の作成者の森本氏のご尊父が明中の生物の教諭で、弟様の正之氏(中20回、後に明高の教諭)とともに野球部のネットの西側の官舎に住まわれておられました。余談ながらこの官舎は昭和30年代に食堂の南側に移設され、筆者はそこで育ち、家の柱に森本兄弟の背比べの痕跡があったことを記憶しています。(佐々木記)

一丸となり「文武両道」を

来年の学区再編へ叡智絞ろう



同窓会会長 竹内 信六 (高13回)

母校の創立90周年を祝福した数々の記念行事が昨年11月末、盛会裏に無事終了しました。それをもって草川雄二会長(高11回)が会長職を勇退されました。12月1日から会長を務めています竹内信六(高13回)と申します。変則的な交代になりましたが、よろしく願います。

今春卒業した66回生を含めると、会員は約3万1000人になります。その代表に立つわけですから、役の重さに身が引き締まる思いです。逝去された方、住所不明の方を除いても同窓会報は約2万1000人に郵送しています。この数だけを見ても歴史の重みを感じます。

来春(現在の中3生)から兵庫県の高校の学区が再編されます。これまでの明石学区は第3学区となり、

西は高砂市、北は多可町、西脇市までに拡大されます。選択対象24校の中に入ります。明石地区から隣りの加古川や少し離れた三木・小野からも受験可能となり、また逆にこれらの地区から明石の高校を受験することも可能となります。特に、淡路からは従来2中学しか明石へ来ることができませんでした。新学区では、「淡路市」の中学すべてより受験可能となります。また、神戸市西区内の中学すべてから受験出来るようになります。

こうした大変革の時は、チャンスであり、ピンチでもあります。このような時に同窓会会長となり、将来に悔いを残さないよう、しっかりとした取り組みを学校とともに行いたいと思います。会員の皆様から「こうしたらどうだ」という前向きなアドバイスを頂戴できれば幸いです。

学区が大きくなる機会に、他校同窓会との交流も考えています。伝統校の同窓会には、例えば年会費が年々集まりにくくなった、と言った共通の悩みがあります。まずは同窓会同士のお付き合いを始めることで学校同士の交流につながり、運動部、文化部の定期戦・定例交流に発展すれば、と思っています。

私の家族(妻)は難病に罹り、介助を必要とする状況です。会員の皆様には、大変ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、精いっぱい務めさせていただきます。今後とも、同窓会の皆様方のご指導とご協力をお願い致します。

◇生徒の皆さんへ◇
明高の制服は「中学生に人気がある」と聞いています。しかし、「いい制服なのに、着崩してもったいない」という声も聞きます。

男子は、ネクタイはきちんと締め、シャツをズボンから出さないで穿きましょう。女子は、リボンをぶら下げず、スカート長くしねじったようなはきはやめましょう。

制服は「歩く広告塔」とも言われます。私が「明高の代表」という気持ちを持って行動しましょう。

もくじ

会長あいさつ	1
校長あいさつ	1
平成26年度総会米寿懇親会のご案内	2
若葉のうた	2
90周年記念事業報告	3
自彊不息	4・5
学年同窓会交歓	6
成人同窓会・入会あいさつ	11
支部だより	12
部活動同窓会	13
明中・明高ゴルフ会	14
関東地区同窓会	15
自彊セミナー報告	16
人事異動	17
進路状況	18
人事異動	19
大学合格者の声	20
部活動報告	21
部活動成績・記録	22
決算報告・事務局より	23
お悔み・役員表	25
前会長あいさつ・編集後記	26
	27
	28

新通学区域での 明高の輝きをめざして

第22代校長 濱田浩嗣 (高25回)



今年、校庭の桜がことのほかに綺麗に咲きました。自彊会会員の皆様におかれましては、ご健勝にお過ごしのこととお

喜び申し上げます。
平素は、本校教育に対し多大なご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。
昨年4月に本校に着任以来、早くも1年が過ぎました。

特に昨年は、学校創立90周年を迎え、記念式典及び記念行事を成功裏に開催することができました。これもひとえに同窓会の皆様のご支援があったからこそ、重ねて感謝申し上げます。今年、100周年に向けて、本校が益々伝統校としての新たな輝きを増すことが出来るよう、同窓会、教職員、生徒、PTAが一丸となつて、教育活動に取り組みなければならぬと決意を新たにいたしました。

ところで、県教育委員会は、平成27年度入試から新通学区域での複数志願選抜入試を実施することを決定しました。生徒の学校選択の幅を広げるため、生活圏や文化圏、交通機関のつながり等を考慮して、現行の16学区から5学区に再編されます。本校は、これまでの明石、加印、北播学区が合わさる第3学区となり、24

校の高等学校から生徒が選べるようになります。また、自由学区として、隣接する神戸市西区と淡路市に居住する生徒も受験が認められています。

この度の通学区域の改編により、中学生は行きたい学校に行けるようになりまし。本校にとっては、行きたい魅力ある学校として、意欲あふれる生徒の入学につながることを大いに期待しています。

そのためには、何より明高生が現在取り組んでいる授業への集中や家庭学習習慣の確立と、教職員が取り組んでいる授業研究・工夫など「学力向上推進研究校」としての実践を一層進めていくことが大切だと考えています。加えて、同窓会から支援をいただいています「予備校の衛星放送を活用した大学センター入試対応講座」や「大学へのオープンキャンパス参加」により、学力向上の成果や大学進学状況の伸びなど、徐々にその成果が現れています。

今後とも、建学の精神である「自彊不息」のもと、高い志を持ち、人格の完成をめざす人材育成に全力を注ぎたいと考えております。明高が、行きたい学校、学びたい学校、魅力ある学校となるよう、一層の取り組みを進める所存ですので、何とぞご支援・ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

末筆になりましたが、自彊会の今後のますますのご発展を心から祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

平成26年度総会のご案内

左記にありますように、定例総会を開催いたします。多数ご出席頂き、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

記

- 一、期日 平成26年6月21日(土)
- 二、時間 午後4時(受付は3時30分より)
- 三、場所 グリーンヒルホテル明石2階
- 四、次第 ①会長あいさつ ②議案審議
③質疑応答 ④その他

懇親会のご案内

総会後、二年に一度の懇親会を開催いたします。ご友人を誘っていただき、お気軽にご参加下さい。懇親会の中で中学17・18回生の先輩をお招きして、「米寿を祝う会」を予定しております。

記

- 一、期日 平成26年6月21日(土)
- 二、時間 午後5時(受付は4時30分より)
- 三、場所 グリーンヒルホテル明石2階
- 四、会費 五千円
- 五、申込 同封の振込用紙をご利用いただき、6月10日までに会費を納入下さい。

若葉のうた

今年一月に詩人の吉野弘さんが逝かれた。そして三月に入って、まどみちおさんも亡くなられた。私の好きな詩人が相次いでいなくなり、淋しさに胸の奥がちよっと痛い。

吉野さんの詩からたくさんのことを学んだ。「祝婚歌」からは正しいことをいうときには、控えめの方がいいということ。「奈々に」からは親の、子に対する愛の深さを。

「夕焼け」からは人の心のやさしさ。などまだまだいっぱいある。まどさんはたくさんの童謡を書かれた。「ぞうさん」や「やぎさんゆうびん」は誰もが一度は歌ったことがあるだろう。「くまさん」という詩を紹介したい。

はるがきて／めがきて／くまさんほんやりかんがえた／さいているのは／たんぼぼだ／ええとほくはだれだ／だれだ／はるがきて／めがきて／くまさんほんやりかわってきた／みすにうつつたいいかおみて／そうだほくはくまだった／よかったな

自分が自分でよかったとうたうまどさんに、どれだけたくさんの人が元気づけられたことだろう。

吉野さんもまどさんもいなくなったけれど詩は残る。私はまた、これらの詩に戻る事ができる。読み返し味わうことで学んだり、元気づけられたりできるのだ。

詩を書くことを通して人々の心に残る仕事が出来た吉野さんもまどさんもすばらしい。だが、どんな仕事も人々の心を動かす瞬間がある。それは仕事に対する誠実な姿勢や人の心に寄り添うかしこさによって生まれてくる。人の心を動かす仕事ができるようしっかり学んで欲しいと今年も若葉はうたうのである。

(幸)

*** 90周年記念事業報告 ***

明石中学・高校の創立90周年を祝って、平成25年5月24日から26日にかけて各種の行事が実施され、在校生や多くの卒業生、関係者の方々に参加いただきました。

5月24日には資料館横の「明中祠」に関係者が集まり、この10年間にご逝去が確認された約1000名の同窓生のご冥福をお祈りし、その名簿をお納めしました。

翌25日には「明石市民会館」にて記念式典が執り行われました。式典につづき高校22回卒業生の阪神電鉄社長・藤原崇起氏にご講演いただき、現役トップビジネスマンの貴重なお話を、在校生とともに聴くことができました。その後場所を移して「舞子ビラ神戸」にて開催された祝賀会にも約300名が参加され、会場の各テーブルでは学年を超えて昔話に花が咲いていました。

今回は初めての企画として、美術科の創立30周年を記念した「記念美術展」が開催されました。8月の兵庫県民会館、11月の東京・表参道会場ともに多くの方々のご来場があり、作品のレベルの高さと「明高美術科ここにあり！」の心意気が伝わったことと思います。それぞれの行事の一部を写真で紹介いたします。

90周年事業会計報告

(収入)

90周年記念事業特別基金	5,000,000
ご寄付	1,490,500
銀行利息	2,109
合 計	6,492,609

(支出)

記念事業実行委員会へ	2,636,160
記念美術展へ	1,274,397
新聞掲載費	1,417,500
独自事業費	848,514
合 計	6,176,571

(収支残金) 316,038



御霊になられた卒業生・旧職員を祀る「明中祠」



明中祠に献花される草川雄二前同窓会会長(高11回生)



明石市民会館における記念式典



記念講演をされた阪神電鉄社長 藤原崇起氏(高22回生)



美術科創立30周年美術展(兵庫会場)

自彊不息

このコーナーは、各界で活躍されている方、自分の夢を追い続ける個性的な方を紹介するものです。

昨年、「オークス」「秋華賞」「エリザベス女王杯」
メイショウウマンボでGⅠ三勝

(株) きしろ 代表取締役会長
松本 好雄氏 (高8回)

競馬は全くやらない。馬券も買ったことがない。テレビでたまに重賞を観るくらいだ。そんな門外漢が「メイショウドトウ」「メイショウサムソン」などの馬主で、競馬界では超有名な先輩を訪ねたものだから、失礼極まりない。おっかなびっくり会社の扉を開けた。(聞き手は竹内信六会長)



【平成25年は競馬のGⅠで見事、三冠を制覇されました】
ありがとうございます。馬主冥利につ

きます。第74回オークス(優勝牝馬)5月19日、東京競馬場)、第18回秋華賞(10月13日、京都競馬場)、第38回エリザベス女王杯(11月10日、京都競馬場)です。オークスは、GⅠでは2007(平成19)年、天皇賞秋以来約6年ぶりです。秋華賞は武幸四郎騎手でしたが「絶対、勝ちます。」と自信満々でした。

【松本さんの馬にはみんなメイショウが付いていますか?】
明石の松本(メイショウ)から採りましたが、勿論、「名将」もイメージしています。

【メイショウサムソンは一世を風靡しました】
その前に2001(平成13)年、メイショウドトウが宝塚記念で初めてGⅠをとりました。メイショウボーラーも活躍してくれました。サムソンですが、2006(平成18)年に皐月賞、ダービー、天皇賞春、秋と制覇しました。皐月賞とダービーは石橋守騎手でした。

【競馬に興味を持ち始められたのは?】
大学が千葉工大で、近くに中山競馬場がありましてフアンに。「いつの日かオーナー席で観戦したい」と思いました。

【仕事の事をお聞きます。「きしろ」はどういう企業なのでしょう?】
本社は明石です。機械加工製造が主力です。1915(大正4)年に木代発動機として、船舶用発動機関の製造目的のため個人が創業。第二次世界大戦後、父が買い取りました。1971(昭和46)年、社長に就任しました。1938(同

13)年、ドイツ製の大型旋盤(長さ25m、幅3.4m、重さ300トン)が今も播磨第一工場(兵庫県播磨人工島)で稼働しています。「戦艦大和の砲身を削った」旋盤として知られています。従業員は「宝物」を持った匠の集団です。

【他にどのような工場、業種を?】
播磨第一工場のほかに土山工場(加古川市)、神戸製鋼所高砂製作所内に高砂工場(高砂市)を設置しています。明石化成工業は稲美工場(兵庫県加古郡)と小野市に工場を設置しプラスチックで自動二輪車のカバーなどを作っています。また、きしろ商事(株)として、営業面を独立させています。

【仕事と馬(競馬)との割合は?】
仕事7割、馬3割でしょうか。馬を通して悟ることが沢山あります。35歳で初めて馬主になりました。馬を買う、という事は馬を通して生産者、調教師、騎手との出会いがある。つまり人と人と繋がる、という事です。生産牧場を支えることは、競馬界の発展に繋がるのです。所有馬は200頭ほどで、うち滋賀・粟東に80頭預けています。

【JRAの要職にも就かれました】
2012(平成24)年まで、日本中央競馬会(JRA)で日本馬主協会連合会会長を8年間務めました。旭日小綬章もいただきました。今は中央競馬会運営審議会の委員を務めております。

【凱旋門賞にも挑まれました】
仏・ロンシャン競馬場での世界最高峰のレースですね。日本の馬はまだ優勝していないのです。残念です。何度でも挑みたいのです。

【馬の魅力ってなんでしよう?】
死闘のあとなのに、優しい目をしている。これに惹かれます。ついでといえば失礼になりますが、人(騎手)では武豊さんですね。紳士で、かつ真摯な方で勉強になります。



【高校時代はどんな生徒でしたか?】
おっちょこちょいで、ごんたでした。よく遊び、又よく遊んだ生徒でした。

【クラブ活動は何部に?】
軟式テニス部でした。

【座右の銘、モットーをお聞かせ下さい】
「人がいて 馬がいて そしてまた人がいる」。生涯青年、生涯現役でありたいですね。

【最後に後輩たちに何かアドバイスを?】
両親を大切にしないさい、と言いたい。子供が親を思う気持ちより、親が子供を



春まだ浅き3月、遠くの山の頂に雪が残る兵庫・但馬路。地域の基幹病院で臨床医として勤務されている同窓生を訪ねた。医療知識に若干の不安を抱きながら：

(常任理事・長塩知子)

平穏死が自然なのです
大切にしたい「看取り」の心

公立八鹿病院 医師
新改 拓郎氏 (高27回)

思う気持ちの方が、ずっと大きいということをお忘れなさい。
☆取材を終えて
白髪、眼光鋭く、古武士然たる風貌。一見、怖そうだが、大変、心遣いのやさしい、心配りのできた人だ。インタビューのあと、父が先の大戦で軍馬に乗っていた「馬は賢いぞ」と言っていたのを思い出し、颯爽と馬にまたがっている父の写真を取り出してみた。

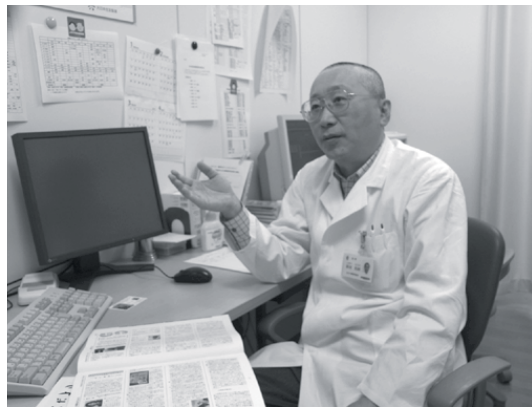
【なぜ県立や市立ではないのですか】
但馬の6町が集まり病院組合を設立してできた病院なのです。養父、八鹿、大屋、関宮、村岡、美方の6町です。地域中核病院で420床、医師は約30人います。

【大学は、どちらですか】
1975(昭和50)年、自治医科大学(栃木県下野市)に入学しました。4期生です。僻地医療を目指す医師を養成するために設立した自治(現総務)省管轄の大学なので、全都道府県立といえづらいでしょうか。1981(昭和56)年に卒業しました。この間、兵庫県が奨学金を貸与してくれました。全寮制です。研修の2年間は、全ての科を回るジェネラルローテートです。1983(昭和58)年、八鹿病院に赴任しました。

【ご専門は：】
【脳】神経内科です。患者と接する臨床医師として頑張っていました。年数が経つにつれ、事務・管理業務が多忙になり、2004(平成16)年12月に倒れ、一時医業から離れました。

【その間、どうされていたのですか】
古代インド哲学、宇宙物理学、素粒子論や脳科学、西洋哲学の本も読んでいました。そして仏教大の通信教育で2年間学び、卒業しました。そして、伽行人業資格(浄土宗)を取得し、49歳で修行の道に入り、清浄華院と知恩院で40日間修行しました。医師の仕事は、丸3年、休業しました。

【現在は、どのような勤務を：】
その後、3月半ばより月、水、金曜日9時~15時まで診ています。木曜日は八鹿町内の特別養護老人ホーム「妙見荘」と養父町の特別養護老人ホーム「ささんか」、養護老人ホーム「あじさい」で診察しています。仏門に入った影響でしょうか、老人ホームで医師として老衰などの終末期の方の看取りもしています。



【高齢化が進む中、お年寄りを看取る、というのは、現代社会の大きな課題ですね】
心臓マッサージ、カウンターショックなどでの救命措置は、ご本人の苦痛を伴うだけで、家族にとっても、辛いことだと思います。ただいたずらに生命を引き延ばすだけの胃瘻措置もいとは思えません。安らかに穏やかに、最期を自然に逝かせてさしあげる(平穏死)が一番いいのです。これまでたくさんの人を看取っ

てきましたが、昨年は68人の方をお看取りしました。私は僧籍を持っていますので、ご臨終の時に、枕経を唱えます。ご家族で唱和なさる方もあります。死が近づいてきたらグリーフケア(悲しみへのケア)が大切です。肉親の死、その悲しみから立ち直れるように、そばにいて支援してさしあげる姿勢が大切です。

【患者さんは、どの辺りからいられますか】
北は香美町、南は生野町、西は温泉町、東は福知山市、と広い範囲に渡っています。

【高校時代はどんな生徒だったのですか】
生物部に入っていました。高1は裁判官、高2は原子力に興味を持ちましたが、高3で医者を目指すことに決めました。

【明高生になにかアドバイスを：】
勉強はしなくても、哲学をすることでわからないことを諦めず突き詰めてほしい。そして利他の行いに、人間として生きていく意味を見い出してほしいです。

☆取材を終えて

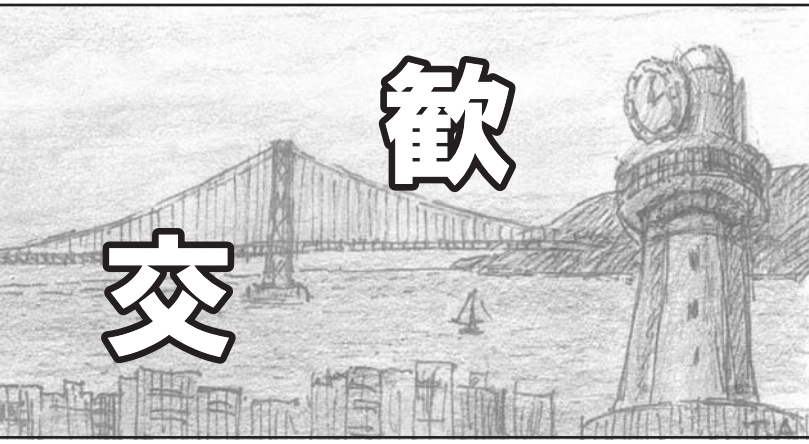
頭の毛を短く刈り込んでおられ、僧侶の雰囲気が出ていた。戒名は「芳蓮社 忠誓拓郎」。患者と家族に積極的に関わっておられる姿勢が感じられ、約束の2時間いっぱい、エネルギーギッシュにお話しして下さいました。先生の診療方針として、入院3カ月を過ぎても最後まで看取る、とおっしゃっていたのを、頼もしく感じました。

明石高校旧職員会(明高会)

山本茂之

平成26年3月8日(土)グリーンヒルホテル明石において、第7回明高会(旧職員会)を開催し、34名が集い旧交を温めました。

会の冒頭、旧職員の物故者追悼の黙禱をささげた後、世話人を代表して村本武彦先生のご挨拶で開会。続いて、ご来賓の濱田浩嗣校長先生から、祝辞と学校の近況報告をいただきました。今年の大学の進学実績や部活動の戦績など輝かし



歡

交

イラスト・安藤 勉 (中18回)

い明高生の活躍に、参加者一同、称賛の声を上げ、今後のさらなる飛躍を確信いたしました。



その後、谷内豊先生のご発声による乾杯で始まった歓談の時間は、それぞれの勤務時の思い出話に花を咲かせ、笑い声が絶えず大いに盛り上がりました。

校歌斉唱では、恒例の中島寛先生のエー

ルで会は最高潮に達し、想いのこもった歌声を響かせました。

大変楽しく和やかに過ごした時間もあったという間に過ぎ、高徳雄三先生のご挨拶で閉会の運びとなり、2年後の再会を誓いつつ、会場をあとにしました。

中学二十回

杉山清巳

私達明中20回生は昭和22年、「明中」最後の卒業生として母校を巣立ってから、平成25年で66年になります。

小学校6年生、昭和16年12月8日「帝国陸海軍は南太平洋上で米国と戦闘状態に入れり」との臨時ニュースがラジオから流れ、いよいよ米国と戦争が始まったのかと子供心に思ったものです。

そんな状況の中での明石中学校受験、筆記試験は無く口答試験だけの入学試験でしたが、緊張したものです。

無事入学が出来、父母も喜んでくれました。

戦争も段々と激しくなり、中学3年生の時、学徒動員法で軍需工場で働く事になり、明石市の川崎航空機に派遣され、ペンをハンマーに持ち替え、何も解らないままお国の為と戦闘機造りに励みました。

昭和20年1月19日には工場がB29の爆

撃を受け、多くの仲間を失った思い出と云うか、大変辛い出来事もありました。

昭和20年8月15日日本敗れり、今もガアガアと雑音が多かった玉音放送が忘れられません。

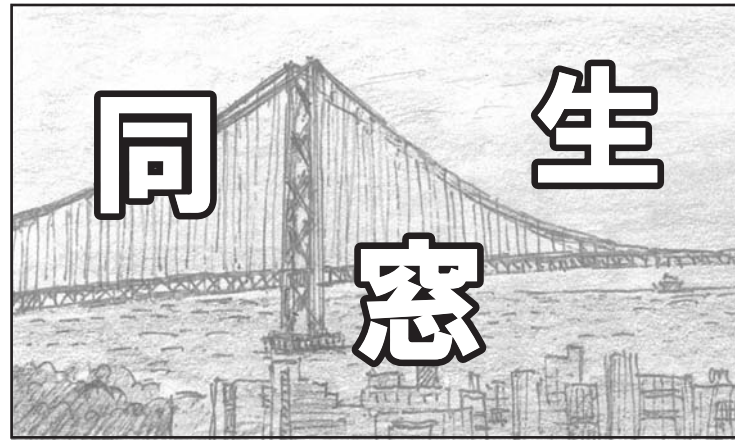
あれから68年「我々もこれからは年をとるばかり」と言う事で同窓会も毎年行っています。

案内は40数名に出していますが、年齢も83〜84歳になり、年々出席も悪く、本年は11名でした。

今後共健康に気を付けて、出席率が悪くならぬ様頑張りましょう。

平成25年10月12日





喜寿の会

高校七回

伊藤 雅子

紅葉の11月12日、舞子ビラにて「喜寿の会」を開催致しました。70名の出席は、予想以上で喜んでおります。
来られて早々に、集合とクラス別の写真撮影を行いました。心は青春、「高校三年生」を合唱して会を始めました。
代表の挨拶の中で、①今回で最終、②もう1回、の賛否を拍手で問いました結果、①に。次に決算の残金は①自彊会に、②その他に寄附、を問いましたところ、前回もそうでしたが、今回もやはり男性



の方が出席者が多い同窓会となりました。4月から計画を進めて参りました。7月の世話人会の開催通知を郵送して以来、次々と役を辞退の電話があり、これは如何なものか(女性が多い)。私も前回の時より寝た切りの夫を抱えて、何日、何が。皆同じだ、の心で今日の日を迎えました。

高校九回

藤尾 芳男

今日だけは輝くひまわりのように、お世話させて頂こうと決意していました。どのテーブルも、少しアルコールも入っていますが、いいお顔での会話が弾んでおりました。「よかった、よかった」、私の心にも沢山花が咲きました。
コーヒータイム後、久しぶりに校歌を合唱して、散会致しました。時間通り、無事終了、肩の荷が軽くなりました。
前々までの、世話人様たちの努力の陰で今回まで続けられました。7回77歳まで開催できた事に、全員で拍手を。毎回、補助金を頂き何とか赤字にならず、安心してお役を務められました。
今後、自彊会が益々発展していければ幸いです。

古希を迎えるころから「体が動かせるうちに、できるだけみんなと会って旧交をあたためる機会を」との声が9回生の中から多くあがるようになり、幹事役もなるべく偏らないよう各クラス有志の持ち回りとして折々に同窓会を開いています。
平成25年は9回生にとって、75歳という個人的にも社会的にも色々な意味においてひとつの節目の年になるため、これを機会に10月31日(木)グリーンヒルホテル明石にて同窓会を開催しました。
今年も前回(平成23年)と同様、講演会と交歓会の二部形式で実施しました。
講演はG組の石本秋穂さん(京大名誉教授、医学博士)にお願いし、75歳にな



る参加者の日頃の大きな関心事のひとつである認知症について、症状・予防・発症時に備えての基礎的知識をわかりやすく講義していただきました。
交歓会は恒例によって、物故者の冥福を祈る黙祷にはじまり、幹事代表挨拶があって、乾杯の音頭で宴会にうつるといふ進行です。今回は、集合写真も、ひとり一人のスピーチも割愛しましたが、会食が進むにつれて、そこで談笑の輪ができ、おもい思いにグループをつかって写真を撮り合ったりして、にぎやかではありながらゆったりとした和気あいあいの時間を過ごすことができました。
最後に校歌を斉唱し、はちきれんばかりの青春の真っ只中にあった頃の感慨にひたりながら次回の同窓会まで息災で居られるよう想いを新たにし、またの再会を約しつつ別れを惜しみました。
講演依頼を快諾いただいた石本さんをはじめ、世話人として何度も打合せの席を持ち、この同窓会の計画・実施に尽力いただいたC、E、G組有志のみならずならびに、自彊会事務局との連絡の労をとってくださった堤明さん(F組)に感謝いたします。



卒業55周年記念



高校10回生(上) 高校11回生(下)

高校十回

小山孝治

平成25年10月18日(金)に高校10回卒業生の同窓会をグリーンヒルホテル明石で開催しました。同窓生の杉田侑司君の名司会のもと森本先生をお招きして大いにもりありがとうございました。余興では明高ブラスバンドOBが5人位メンバーとしておられるエバーグリーンジャズオーケストラをお願いして1時間程度のスイングジャズの生演奏、校歌、応援歌、朝ドラのあまちゃんのテーマソング等々迫力満点で、とても若返った気持ちになりました。その後は同級生による太極拳、剣の舞などそれぞれの隠し芸のお披露目で午後4時まで楽しい時間を過ごすことができました。

森本先生に10回生の想い出話を質問しますと、高校卒業旅行の時におこした不祥事だけを鮮明に覚えておられたことは参りました。写真撮影では、これが最後かな?と冗談を言いながら写真ではプロ級の三好康君が集合写真をとってくれて5年後の再会を願ってお開きとしました。

高校十一回

大林省三

母校を卒業して52年と7ヵ月の同期が集い、昨年11月に「明高11回生同窓会」を市内のグリーンヒルホテル明石で2年ぶりに行いました。参加者は52人、前回より26人の大幅の減少でした。やはり、72歳にもなると、本人の入院や両親の介護などに手を取られて、参加出来ない同級生が急増しております。それでも2年ぶりの再会を楽しみにしていた参加者はクラスごとの7テーブルに分かれ、在学当時の話題に懐かしみましました。この2年間に春の叙勲が3人、秋の褒章1人が授章しており、自彊会の中でも明高11回生は誇れる存在だと話し合い、4人に記念品を贈呈しました。

高校十三回

石川 政治郎

平成25年5月18日、人丸花壇において「古稀を越えて」と銘打って高校第13回卒業生同窓会を開催しました。

序幕、1幕、2幕の3部構成で、特に今回初めての試みである序幕「母校再訪」では、あの懐かしい中部講堂を開けていただき、ステージに並んで校歌、応援歌、第2校歌(明中校歌)を思い切り声を出して斉唱し、同窓会の原点は母校にありを再確認し、しみじみと懐旧の情に浸ることができました。

1幕は「古稀の宴」。恒例の全員写真撮影から始まり、ご出席いただいた中嶋忠幸、森本正之、茶谷萬壽代の3先生を中心に、ゆっくりとご馳走を賞味し、美酒に酔い、久しぶりに旧交を温めるせいたくいな時間を共有しました。クラス写真を撮影しながら代表一人にひとことずつお願いしましたが、それぞれに古稀の年輪を感じさせる話を聞くことができ、これぞ同窓会の醍醐味との思いを新たにしました。

つづいてこれも恒例の「みんなで歌おう」。参加者全員106名で校歌、応援歌を斉唱し、大いに盛り上がり、たところで次回3年後の再会を約し、1幕の幕引きとしました。

2幕は「名残りの宴」。母校再訪の気分を引きついで、自由にグループを作つて、カラオケも楽しみながら和やかな歓談の時を過ごしました。



今回の幹事担当校は、大蔵・附属・伊川谷。次回は錦城中学校です。来秋、姫路で開催する予定です。

高校十五回

中山 勝彦

4月11日(木)、卒業50周年&古希記念(数え年)と銘打って、西明石のホテルキャッスルプラザにて開催。恩師の小倉先生、武岡先生、森本先生、茶谷先生のご臨席を賜り、同級生は、初参加の人や、遠くは千葉・福岡、それにハワイからも馳せ参じ、総勢95人の賑やかな同窓会となりました。

恩師からのご挨拶、47名の物故者への黙祷、そして森本先生の気合の入った乾杯により歓談開始。

憧れていた彼女、彼氏との思い出話、50年間の苦労話や自慢話、健康や孫の話等々。話し上手に聞き上手が加わってあちこちのテーブルでどっと笑いが湧き上がったり、シーンと静まったり。アトラクションでの「高校時代の写真70枚のスライドショー」には全員が注目。スマイルで美人の彼女や、ハンサムだが汗まみれの坊主頭が次々と登場。フォークダンスの写真では、「次は彼女だ!と喜んだ途端に逆回転でさようなら」の発言に、「そうだ!」、「そうだ!」と同調。ビンゴゲームで湧いた後、「ホケない小唄」、「ふるさと」の合唱、恩師への花束贈呈、校歌・応援歌の気合の入った大合唱と続き、最後に全員の心をつなげて「関東一本締め」をバシッと一発で決め、一次会はお開き。

3年後には、全員そろって、正式な「古希記念」同窓会をやろうと誓い合って散会しました。

卒業50周年記念



卒業50周年記念

高校十六回

廣瀬 瀏 二

歳をとると、日ごとに人恋しくなる。好からぬことではあるが、それは死に近くなっているのか、はたして、周りの環境がそうさせるのか、真意は兎も角、理由をつけて人を求めることとなる。

その究極が、同窓会なのだ。小学校、中学校では少しばかり物足りない。大学になると、同窓生でも些か距離がある。一等手頃で、屈託もなく、青春を感じれるのが、高校の同窓生なのである。

今時の露骨な恋愛感情もなく、只管遊びと、僅かな勉学に勤しみ、それでも一応の青春を謳歌したものだ。

あれから既に50年が経ち、周りに居たはずの、多くの友がこの世を去り、また、病気や、もろもろの諸事情で、逢うことすら儘ならない友も居る。こうして、50年の節目に同窓会に集える我々は、きっと幸せなのだ。

それなりに、健康で、幸せでなくとも平凡で、優雅と言えないまでも、生活が出来得ていることに感謝しつつ、久しぶりの友の笑顔や、歓声に包まれながら、84名もが参加しての同窓会となった。

女はそれなりに歳をとり、男はというと、老いぼれていることすら気づかない



ま、青年気取りでいる。これがまたいい。男とはそういうものなのだ。女はそれを冷ややかに笑っている。それがゾクッとする程嬉しい。今度はいつなのかと、せつつく様に尋ねてくる。もちろん生きていればの話だが、70歳に成ったらまた会おう。



卒業45周年記念

高校二十一回

和田 伸 樹

高校21回生の卒業45周年同窓会は、全国的に気温40度を超える地域が続出の8月10日(土)午後1時よりホテルオークラ神戸にて開催されました。

体育会バリバリの山口潤一君、光森安子さんコンビによる司会進行でヒートアップ、なんとなく幹事長に祭り上げられた、音楽部和田伸樹の親父ギャグ満載の挨拶でやコケながらも、第6回生野球部の猛者で恩師高徳雄三先生の乾杯の音頭を以って大懇親会へ突入。

名幹事井上裕朗君の、会場費・料理価格交渉術により、JR2駅程行った所の某ホテルと同じ値段で内容の充実した料理を楽しみながら、3年前の還暦同窓会以来での再会、歓談で楽しい時間を一同過ごしました。

何と言っても武岡徹先生の校歌独唱に続き、校歌、応援歌で高校時代にタイムスリップ、そして今回も全員をまとめてくれる福本吉高君、浅原正文君、増田義明君の応援団トリオによるエールで45年前に戻った様な気がいたしました。

また今回は2年生の途中で転校した辻真知子さんが奈良より駆けつけてきてくれ懐かしいメンバーが増えたことも何よりです。

締めめの挨拶は、生徒会長岡本好和君が周到に準備した、ホンマに長過ぎる挨拶



で(司会者から何度も巻きが入っても平然と)お開きとなりました。とは言うものの時間は未だ午後3時。海側から、山側新神戸のクラウンプラザホテルで何と言っても楽しい2次会へ。Barは豪華な雰囲気なのに2時間飲み食い放題3千円、初恋から持病の話まで喋りつかれて解散。ホントにお疲れ様でした。

1・2次会と飲み食いする暇もなく写真を撮ってくれた戦場のカメラマン 木下茂信君。そして共に1年間クラス幹事として準備に携わってきた幹事の皆様方に深く感謝申し上げます。



還暦記念

高校二十三回

南谷雄司

平成26年1月4日(土)に23回生還暦同窓会をグリーンヒルホテル明石で開催しました。

当日は卒業生132名の参加があり、来賓として、同窓会長竹内信六氏や校長濱田浩嗣先生をお迎えし、ご挨拶をいただきました。恩師として武岡徹先生、前田英雄先生、佐伯勝先生が出席され、一人ずつ紹介のあとお話をさせていただきました。どの先生も大変お元気ではつらつとされており、当時の若かったお姿を思い出させていただきました。伴奏に武岡先生夫人登土子様も参加いただき、盛大な還暦同窓会となりました。

当日は、11時から2回にわたり記念写真撮影を行い、12時より還暦同窓会が開催されました。

開会に先立ち物故者への黙祷が行われ、司会・開会挨拶は南谷が担当しました。特に今年は還暦同窓会でもあり、武岡先生と神戸室内オペラ代表の中塚雅敏君に校歌を歌っていただき、その後オペラを披露していただきました。卒業生の中には、神戸新聞に勤務している山崎整君がおり、ラジオ番組で活躍していることが紹介されました。一次会終了後記念写真が配布されました。午後3時から二次会が続け開催され、全員が参加する中、各クラスごとに舞台に上がり一人ひとり自己紹介挨拶があり記念写真撮影も行われました。

今年度は冬季オリンピックの年でロシアのソチでオリンピックが開催されましたが、今後は、冬季オリンピックの開催年に同窓会を開催することとなりました。日程が平成25年度ではありませんが、平成26年1月4日の開催となり、少し遅れた開催となりましたが、人数では130名を超える多数の参加となり盛況でした。今回の還暦同窓会実行委員長は南谷が担当しました。多くのクラス幹事の方の協力をいただき感謝いたします。閉会後も三次会まで参加した同窓生もおり、話題はつきなかつたようです。



還暦記念

高校二十四回

松尾衛子

平成25年5月3日舞子ビラ六甲の間にて明石高校24回生還暦同窓会を盛大に執り行うことができました。

少しでも多くの同窓生に集まっていただし、ともに人生の大きな節を共有したいと思い、昨年夏に暑中見舞いを同窓生全員に送らせていただき、早くから期日をお知らせすることで、日程の都合をつけていただく努力をしました。

当日は、恩師代表の挨拶を小倉隆興先生にお願ひしました。そして、河合理事の音頭で乾杯、会も、終わりに近づいたころ、恩師の先生から一言ずつごあいさつをいただきました。「還暦を迎えた私たちに一言」という厚かましい申し出でしたが、東道・中尾・高田・吉川・中嶋・角・高徳先生から、心温かい励ましの言葉をいただきました。還暦は、新しい出発であること、このような盛大な同窓会ができたことを誇りにしなさいといったお話が特に心に残りました。

自彊会から、還暦記念同窓会ということで10万円をいただきました。ここに敬礼申し上げます。最後に、受付・シャトルバスの案内と誘導・手の込んだ名札の作成など、至る

所でお手伝いをしてくださった、たくさんの方々へ深く感謝して還暦記念同窓会の報告といたします。



64回生 成人記念同窓会

学年主任 青山 与志枝

平成26年3月21日(春分の日)に、「明石高校成人記念同窓会」を明石高校の中部講堂で開催しました。この行事は市内でも明石高校だけで行っているというユニークなものです。当日は64回同窓生66名と、学年団から7名の教師が参加しました。64回生の学年幹事(同窓会役員)の小柴智弘さんの司会のもと、山本直樹・山田達雄・藤村明子・古川大輔・神尾弘史・西海将雄・青山与志枝の各先生のスピーチは楽しく、また高橋常夫先生からはお祝いのメッセージをいただきました。

記念写真も含めて1時間ほどの講堂の行事が終わった後、軽食(テチ・パトウーのパン)を受け取って懐かしい教室で食べました。

さらに職員室のストーブのまわりに集まってきて夕方まで先生たちを囲んでおしゃべりをしていったグループもありました。高校時代の思い出、大学のこと、勉強のこと、彼氏のことなど話題は多岐におよび、楽しいときを過ごしました。明石高校で充実した楽しい日々を過ごしていたんだなと改めて確認できました。今年1月の成人式の後に学年同窓会をしているので、今回の参加者はあまり多

くはなかったけれど、よい同窓会だったと思います。案内状や軽食や記念写真などの手配をいただいた自彊会(同窓会)のみな様に感謝しています。

なお、今回からの記念写真はフォトブック写真部屋を利用し、郵送はやることにしました。Googleなどで「フォトゲット写真部屋」を検索し、写真部屋に入ったら画面左下の「写真部屋の検索」で「64」と入力すると『明高64回生同窓会』が表示されるので、そこをクリックします。ニックネームは、本名でもあだ名でも何でもよいです。パスワードはaoyamaです。それで写真部屋に入ることができず。どうぞご覧下さい。有効期限は3カ月です。



同窓会入会あいさつ

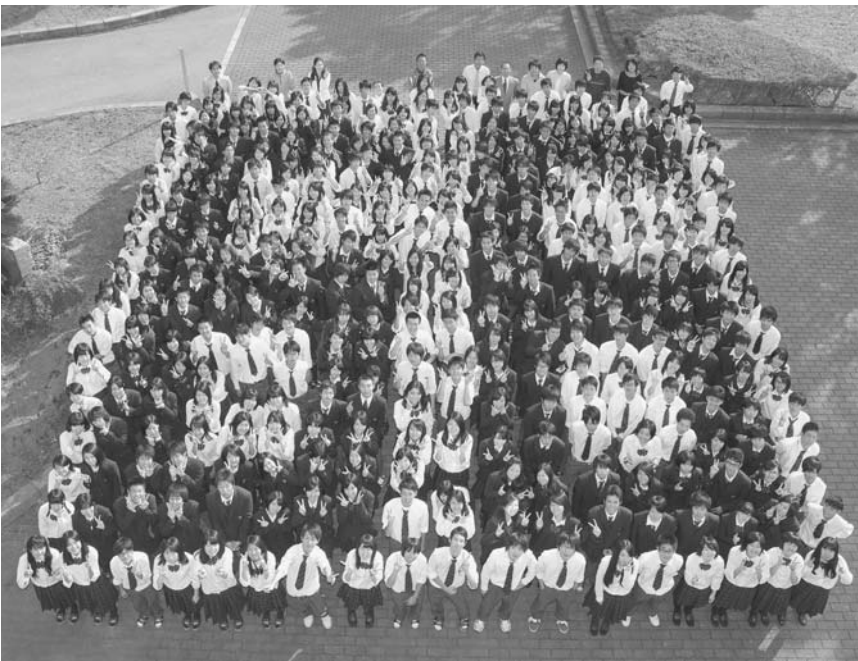
山内 圭哉

私たち第66回生356名は、2月28日に卒業し、自彊会へ入会させていただきました。私たちが明石高校で過ごした3年間は、かけがえのない宝物となりました。

部活動や勉強はもちろんのこと、いろいろな行事、日頃の生活など、何事にも精一杯やってこれたのではないかと思います。

私の高校生活の思い出は、体育大会です。私自身、走ることには多少自信がありましたのでリレー種目に出場し、2年生のときスウェーデンリレーで見事、歴代の1位という記録を残すことができました。私がこのような行事で思ったことは、ひとり一人が力を合わせ一つの目標に向かって一生懸命やり抜くということ、仲間の大切さを学ぶことでした。

これからは、それぞ



れが違う道へ進んでいくことになり、楽しみな人、不安な人がいると思いますが、66回生の最高の仲間と切磋琢磨してきたこと、そして明石高校卒業生であるということを誇りに持ち一歩ずつ歩んでいきたいと思えます。これからも日々努力していきたいと思えますので、ご指導ご鞭撻よろしくお願ひ致します。

支部だより

美術科支部

鷺森 智美 (高38回)

平成25年9月1日、学校創立90周年記念事業・美術科創立30周年美術展「美術科同窓会展2013」開催期間中に、兵庫県民会館にて、第7回同窓会美術科支部総会を開催いたしました。悪天候の中、会場までご参集下さり本当にありがとうございました。議長進行のもと、議案として、会則の一部改正、新役員の選出、活動報告及び計画、会計報告など、出席者の承認を受けました。また美術科画報発行についてや、連絡配信の検討など報告があり無事会を終了しました。

当日は美術展の最終日でもあって、沢山の先輩方や懐かしい方との再会もあり、このような機会を頂けたことに深く感謝いたします。総会に出席された会員を含め、美術展会場に最後まで残って下さった先生方にも作品搬出のお手伝いをして頂き、改めてお礼申し上げます。そして母校の発展と会員の親睦とともに、



兵庫会場

今後も美術科の伝統をつむぎ「明高ブランド」をつくっていきけるように努力したいと思えます。11月に開催した東京展でもご尽力くださった皆さまのおかげで、無事終える事が出来ましたこともここに報告いたします。ありがとうございました。



平成26年度同窓会美術科支部役員表

- 会長 鷺森 智美 (高38回)
- 副会長 谷本 研 (高44回)
- (関西担当) 稲葉 展 (高39回)
- 副会長 阿随 敬祐 (高39回)
- (関東担当) 津村 陽子 (高40回)
- 井上 恵子 (高39回)
- 佐藤江里子 (高52回)
- 岡村奈津子 (高39回)
- 若干名
- 顧問 幹事・運営スタッフ

平成26年度同窓会美術科支部 総会のご案内

下記にありますように、第8回総会を開催いたしますので、多数ご出席下さい。

記

期日 平成26年6月29日(日)
 時間 13:30より
 (受付は13:00から)
 場所 明石高校資料館

※日時変更等、あります場合は、「分家ブログ <http://meibidousoukai.cocolog-nifty.com/>」にてお知らせいたしますので確認のほどよろしくお願い致します。

東京自彊会

野呂 良久 (高14回)

平成26年4月6日(日)12時より東京自彊会の総会および懇親会が明高校長・濱田浩嗣氏「写真」、前自彊会会長・草川雄二氏、自彊会事務局長・吉田眞司氏をお迎えして文京区湯島にある千代田テックノル本社ビル2階会議室にて90名の会員が出席され開催されました。



総会では浜口邦臣会長から挨拶があり、母校創立90周年を機に再発足を期して東京自彊会として本日の総会を開催する旨の挨拶の後、「東京自彊会会則(案)」の審議が行われ、会員資格を関東地方及び周辺の地域に在住する者とする事で承認されました。

続いて、役員選任で、会長 野呂良久(14回生)、副会長 細田敏和(14回生)および田中耕三郎(15回生)、幹事および監事として 長尾昌男(18回生) 会計担当、小西幸男(20回生)、原 秀子(23回生)、佐藤佐喜子(25回生)、岩田拓也(28回生)、清水真美(35回生)、三木谷浩史(35回生)、阿随秀昨(39回生)の方々が承認されました。

午後1時より、1階エントランスロビーに設営された懇親会会場に移動して、濱田校長からの祝辞と明高の現状と今後の

展望等の説明がありました。特に、東京自彊会会員の最大の関心は母校後輩たちの進学状況です。いくつかの週刊誌で毎年報じられる現状に、国立の一流難関校と言われる大学への合格者が極めて少ないのに心を痛め、寂しい思いをしているとの声が多く寄せられました。濱田校長から過去の栄光を取り戻すべく、職員一丸となって学校教育に取り組みされている結果、進学状況も少しずつ上向いてきつつあるとの報告に、皆さんが笑顔で頷かれているのが印象的でした。

自彊会本部の草川前会長の乾杯の挨拶に続いて、懇親会がスタートし、皆さん同級生同士や、先輩・後輩の枠を越えて楽しく歓談されていました。吉田自彊会事務局長の中締め挨拶の後、今回の総会・懇親会の機会にクラス会を二次会として別の場所で開催される学年が幾つかありましたので、午後2時半頃に来年の再会を期してお開きとなった次第です。



部活動 同窓会だより

ハンドボール部

柿野 明 男 (高26回)

昭和21年創部以来、歴史と伝統に輝く「明石高校ハンドボール部」の偉業を記念して、昭和60年2月、母校に「ハンドボール部記念碑」が建立されました。そしてその年8月に「明石高校ハンドボール部OB会」が発足し、現役チームの支援、会員相互の親睦等の活動を展開しておりますが、近年はその活動が停滞しております。

このような中、「小田隆子先生を偲ぶ会」、「栗山繁則先生を偲ぶ会」が開催されたおりに、たくさんのOB、OGの皆様方から明石高校ハンドボール部の更なる発展を期待するお言葉をいただきました。

そこで、平成23年「明石高校ハンドボール部OB会」を再始動し、「明高ハンドボール魂」を日々、奮闘努力する現役後輩諸君へ引き継いでいくためにしっかりと支援していくことを決意しました。

平成23年には女子ハンドボール部が工藤先生の指導のもと、宿敵の夙川学院を倒して27年ぶりに県大会で優勝し、インターハイでもベスト8まで進みました。翌年24年も女子ハンドボール部は県大

会で優勝し、インターハイでも前年度と同じくベスト8まで進みました。男子ハンドボール部は寺口先生の指導のもと、県大会では優秀な成績を残していますが、毎年あと一歩というところで涙をのんでいます。



明石高校は公立高校なので有望な選手を集めるのに私立高校に比べると少しハードイがあると思いますが、しっかりとしたOB会を確立し、更なる会員同士の交流を図りながら現役支援の体制を作っていけば必ず兵庫県ハンドボール界の常勝軍団としてさらなる発展を期待できると思います。

硬式野球部

大塚 弘 一 (高15回)

OB、OGの皆様におかれましては、年会費、寄付金をお願いの案内がありましたら、ご協力いただきますようお願い致します。最後に現役チームのメンバーにおいては明石高校のハンドボール部の一員であることに誇りを持って勉学とクラブ活動の両立をめざして頑張ってください。

現役に対するOB会活動としては、物心両面の支援、各種アドバイス、指導、練習手伝い等が挙げられますが、用具類、施設の充実を父母会と協力し経済的支援を行い、心理面では今までも外部講師による講演会の開催等を行っております。

現役に対する指導については、角野監督(42回生)と同期の木戸氏がコーチとして、また、坂本氏(35回)、川合氏(43回)、足立氏(45回)ほか諸氏が多忙な中、休日を利用して全くのボランティアで精力的にグラウンドに立っております。

最近では卒業後も野球を続ける人数が各年度20名強の内3〜4名と少なくなってきたており(実業団野球部の減少も影響)現役に伍して実技面での指導、練習手伝いの人材が少ないのが現状です。一方、OB会員も会報送付数700名程度で推移しており、連絡先不明者も新規入会者を上回る勢いで増えております。会

費納入者も同様に90名前後で、目標の100名には届いた事ありません。明石中学卒業の会員は遂に3名様となり、30回生迄で70%強を占め協力度は高いものの、47回〜59回生は0名と淋しい限りです。現役との関わりに関して、OB会そのものの在り方が問われる時期になって来ています。OB間のみの親睦団体に徹するには、過去の輝かしい歴史から許されぬ思いもあり、様々な意見が交わされております。

全てを解決するには、【古豪復活！甲子園出場】が一番！

OBだけでなく、自彊会会員、明石市民全体が一致団結、盛り上がることを間違いなし。創立100周年までに夢かなうよう「現役よ頑張って」と祈る日々を送っております。



試合終了後アドバイスを送る角野/木戸/坂本各氏(左から)

陸上競技部「韋駄天会」

森口 聡 (高30回)

明石高校陸上競技部OB会は、韋駄天会という名称で、昭和39年に発足しました。当時は、15回生以後のみでありましたが、現在は1回生からの先輩方も含めて500名を超える会として運営されています。

主な活動として、現役部員に対して競技場使用料、必要な用具の購入等の支援の他、現役部員との交流を図ることを目的とした交流会の実施、練習の指導、各種表彰等行っています。さらに毎年1月には、OB総会兼懇親会を開催するなど、OBどうしも旧交を温めています。

現役部員の方は、近畿大会まで駒を進める種目も出てきており、昭和59年、3名が全国インターハイに出場して以来の全国大会も夢



ではなくってできています。全国大会はさておき、私達OBが嬉しく思うのは、部員の数も増え、応援に行った競技場のいたるところで後輩たちが精一杯競技している姿を見ることが出来るようになって

たことです。

この後輩たちの活躍は、韋駄天会のホームページでも紹介していただいていますので、機会があればご覧になってください。

バスケットボール部

和田直樹 (高28回)

ついにOB会活動が節目の10年を超え11年目に突入しました！

そしてこの度、10年の長きに渡って会長をお勤めいただいた13回生の三瀬さんがご退任され、新しく28回生の和田直樹が会長に、副会長として29回生の前田豊、33回生の戎浩一の両君が就任いたしました。OB会員、現役の皆さんにおかれましては今後とも新役員共々OB会をよろしくお願い申し上げます。

今後のOB会の方針としましては現役の応援、また強化の依頼があったときの補助を充実していきたいかなと思います。やっぱりOB会としては現役が強く楽しくそうにクラブをやってくれるのが一番ですね！

さて25年度も例年通り3月23日に祝卒業兼OB会歓迎食事を、5月3日にOB総会・現役親睦会をOB現役合わせて70数名で、8月11日にカーニバルをOB現役合わせて60数名が集まって開催いたしました。また毎週土曜日は明高体育館

で午後6時よりOBの練習も行っていきます。社会人チームとしてOB・OGとも市民大会に出場、成績はともかく笑顔をしんでいます。また50歳以上のチームもOB中心に結成し、県のスーパースニア大会で優勝しましたああー！



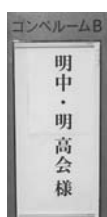
明中・明高ゴルフ会

小山孝治 (高10回)

伊庭前会長の後任として選任されました小山孝治(高10回)です。明中・明高ゴルフ会は、明石中学校・明石高等学校を卒業した者及び、同校の教職員、教職員であった方原則として60歳以上の者で構成され、ゴルフを通じて親睦と技術の向上を目的とし、毎年春、秋に各一回開催されており、ハンディキャップはダブルペリア方式で上級者、下級者共それなりに楽しんでおります。

健康にプレーできることを楽しんでおりますのでふるってご参加下さい。最近の開催状況は以下の通りです。

- ◎第82回コンペ 平成25年4月11日(木) 垂水ゴルフ倶楽部 26名参加
 - 優勝：岩井 正美(高13回)
 - 準優勝：江島 昭臣(高13回)
 - 3位：藤原 福正(高13回)
- ◎第83回コンペ 平成25年10月10日(木) 垂水ゴルフ倶楽部 36名参加
 - 優勝：藤原 博(高10回)
 - 準優勝：吉川 尚三(高6回)
 - 3位：大石 忠(高16回)



高13回生ゴルフコンペ

三瀬君が優勝

井上昌俊



平成25年5月17日(金) 於:明石ゴルフ倶楽部

平成25年5月17日、13回生の「喜春(きはる)会ゴルフコンペ」が明石ゴルフ倶楽部で27人の愛好家が参加して行われた。上の成績は次のとおり。(敬称略)
優勝 三瀬祥夫(グロス89、ネット70)
▽2位 井上昌俊(グロス85、ネット73)
▽3位 分玉光洋(グロス109、ネット73)
なお、初参加者、女性の愛好者を歓迎している。今年4月11日開催の予定。

高13回 関東同窓会

中尾眞・若竹芳子

記念艦「みかさ」などを研修

例年幹事役を交代しながら開催されております。関東地区明高13回生・同窓会を平成25年10月5日に横須賀地区において催させて頂きました。

午前には計画していた「横須賀軍港巡り」が生憎の悪天候のために中止となり、急遽予定を変更して黒船・4隻を率いて日本開港を迫った歴史を展示した久里浜海岸の「ペルシー提督上陸記念館」を見学した後、市内レストランにおいて昼食を兼ねた懇親会を開催致しました。

午後には、日露戦争においてバルチック艦隊との壮絶な海戦となった明治38年5月27日の「日本海海戦」の際、東郷平八郎・連合艦隊司令官が座上されていた記念艦「みかさ」を研修致しました。

案内役を買って頂いた「みかさ」保存会「古宇田理事による懇切丁寧な説明に一同深い感銘を受けてタラップを降りました。

因みに、同理事は一般大学を卒業の後、海軍兵学校縁の江田島に所在する海上自衛隊幹部候補生学校に(中尾幹事・同期生として)1年間修業の後、潜水艦勤務、更には、得意の英語力を駆使してハワイ所在の米海軍太平洋艦隊司令部・連絡士官や横須賀所在



の在日米海軍司令部・渉外連絡官の要職を歴任されました。

ところで、NHKで放映された「坂の上の雲」の撮影に際しては、記念艦「みかさ」艦上において幾度となくロケが実施されております。

また、軍艦「三笠」は明治32年1月に英国のパロー・イン・ファイネスト造船所で起工の後、明治35年3月に日本海軍に引き渡されて日本に回航されました。

当時、9インチの主砲を備えて18ノットの高速度を有した最新鋭戦艦の勇姿は、暗雲垂れ込めた日露関係を鑑みて、日本国民にとって掛替えのない存在として映ったものと思われます。

最後に日本近代化の起点としての横須賀製鉄所建設の立役者となった「ヴェルニー・仏国技師記念館」を見学した後、参加した15名は横須賀同窓会の想いを胸に三々五々帰路に着きました。

高18回 関東同窓会

桑原 哲朗

28人、有楽町で逢いました

平成25年6月15日、高18回(昭41卒)の東京同窓会を行った。有楽町マリオン前の会場に首都圏各地から65・66歳28人が集まり、3年ぶりの再会。

◎乾杯前ですが どうぞ一杯やって下さい。司会進行役、放送委員会・足利礼子(旧姓神村)の粋な口上によりハナから宴会モードとなる中、一応はお固く幹事報告の後、あいさつ・松井誠、乾杯音頭・野口照生。生徒会正副会長の揃い踏みだった。松井は長崎で定年を迎えて東京ターン。今も広島でサヨク活動を続け

る野口は上京オグの合間に駆け付けた。◎高校3年生 幹事団(小林和夫、足利、桑原)は前回同様「高3カード」を用意した。卒業アルバム個人写真を苦心さんたんコピーし、名札に貼り付けた特製品で、その「18歳の私」はそれぞれの胸に。一方、壁面には2012学年同窓会の特大集合写真(北村写真室提供)を展示。こちら「顔々々々」には老けたハゲた化けているとロンピョーの嵐。

◎席替えタイム 今回は宴会事情に詳しい大関酒造・小林の発案で着席スタイルとした。遊泳困難、同じ人とはかりなどとは実は心配していたのだが、女子アナは宴の半ばに「ハイ、席替えです」。おかげで終始ワイガヤ、飲み放題のモトはとった?

◎フィナーレ 酔談が長引いたため、予定の全員スピーチを大幅カットし、近況報告は北村俊行、寺嶋良博、仙台在住・矢野歳和、カナダ帰りの堀本文子(尾島)ら初出場組に絞ってお願いした。コーラス部・西尾至史のタクトで校歌大合唱、28人は富士フィルム・正木幸一のカメラに収まってお開き。2015再見、それまでお元気で。

◎美人OL乱入 2・3次会は1人減り2人減り、ラストラウンド新橋駅裏・鳥森の居酒屋に10人。ほどなくお店に現れた若い女性「お母さんを迎えに来ました」。某メンバー

の長女で子供部屋の住人、損保勤務のOLとか。母子の帰宅は許されず、結局蛍の光まで。



私達、18歳!開宴前からはしゃぐ受付嬢トリオと会場一番乗りの伊藤豊

自彊セミナー報告

延べ107人が参加

難関大学のオープンキャンパス

平成25年も恒例となっている近隣の難関大学のオープンキャンパスに希望者を募って実施した(同窓会主催)。バス仕立てで訪問したのは、次の7大学で、生徒たちは各大学の催しに参加し校内を散策して大学の雰囲気を感じと足早く味わっていた。

今回は兵庫県立大と武庫川女子大を初めて訪れた。神戸大は学部ごとに実施日が異なるので、個人々々で対応してもらうことにした。見学した大学と参加人数は次の通り。

【関西学院大、8月3日】15人。引率者〓竹内副会長、藤村教諭。

【関西学院大↓甲南大、8月4日】37人。引率者〓竹内副会長、菊池教諭。

【関西大、8月4日】16人。引率者〓草川会長、鷺森常任理事、山中教諭。

【同志社大↓立命館大、8月4日】12人。引率者〓伊川副会長、福本常任理事、上河教頭。

【兵庫県立大工学部、環境人間学部、8月9日】17人。引率者〓竹内副会長、三尾教諭。

【武庫川女子大、8月10日】10人。引率者〓竹内副会長、今村常任理事、都留教諭。



関西学院大学



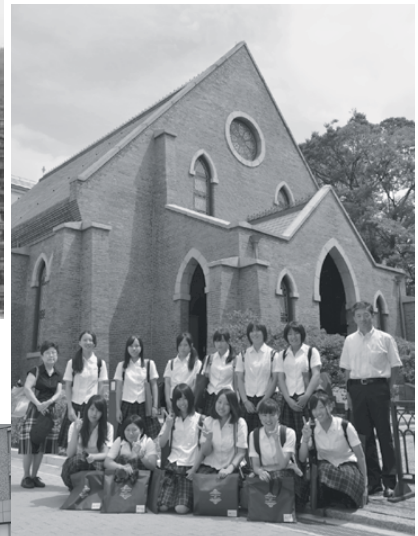
甲南大学



県立大環境人間学部



県立大工学部



同志社大学



武庫川女子大学・短期大学部



立命館大学



関西大学

お世話になりました

青春の辞書には 失敗という言葉 言葉はない

前教頭 上河 創
(高29回)



教頭として3年間母校の明高に勤務させていただきました。この間、生徒の皆さんからは本当に多くの感動をいただきましたが、これは先生方の熱意あるご指導の賜物でもあると思います。

私が教職に就いてから自分の中でずっと大切にしてきた言葉に、「青春の辞書には失敗という言葉はない。」という一節があります。英国の政治家リットンが残した言葉ですが、明高での3年間で、この言葉を思い起こすことが幾度と無くありました。建学の精神「自彊不息」と校訓「自治・協同・創造」を具現化し、



失敗を恐れることなく絶えずチャレンジを繰り返す生徒の姿に感動させられる日々でした。

「たとえ今はうまくいかなくても、行動すれば何かが変わってくる」と信じて、ひたむきに努力する生徒の姿が今の明高にもあります。また、複数志願選抜制度の導入に加えて、通学区の拡大を来春に控えた今、明高にはまさに「風が吹いてきている」と感じています。自彊会会員の皆様には、これまで以上に力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸、そして明高の益々の発展をお祈りして、離任の挨拶とさせていただきます。



明高、わが心の教会

木下 淳一



明高は前任校に勤務している時から、空手道部の練習等で時々お

邪魔している学校でした。その明高で16年も勤めさせていただくなんて、着任前には予想だにしませんでした。

春には資料館前の美しい桜、夏には会議室の窓から見える明石海峡大橋のライトアップ。そして秋には教室棟横の紅葉が色づき、冬になると時折グラウンドが真っ白になる雪景色。これらの自然の風物が今も私の瞳に焼き付いて離れません。

明高の魅力はそれだけではありません。「懐の深さ」これこそが私の明高生活で体感した明高の美点です。人を許し、責めることがない。まるでイエス様やマリア様のような方々との出会いも、ここ明高で与えられました。今思うと、私は明高という教会に通っていた1人の信者だったのかもしれない。最高の時間がここにはありました。

愛する明高を去るにあたり、私に最高の時を与えてくださった卒業生をはじめとする自彊会の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にほんとうにありがとうございました。

師弟同行

土井 一弥



明石高校での教員生活は、生徒達と共に成長させてもらいました。

総合選抜制度のころから勤務し、複数志願制度へと、制服も変わり、新生明高への変革期に立ち会うことができました。80・90周年記念式典にも立ち会うことが出来ました。特に90周年では、祝賀会の司会まで経験させていただきました。学年では副主任2周りと担任は4回しかできませんでしたが、この10年間でたくさん生徒と関わる事が出来ました。若手として勤務した明石高校も、今では中堅教員。たくさんの方に出会うこともできました。なんといっても、剣道部では、100人を超える弟子たちとの出会い、また、自分が高校の時に出場できなかったインターハイに個人も含め3度も出場させてもらいました。本当にいい時代を共に作っていくことが出来ました。今の自分があるのは、生徒達とともに過ごしたなかで、生徒達から教えてもらったからだと感じています。長いようで短い14年間。明石高校が自分の母校だと思える学校となりました。本当にありがとうございました。明石高校のこれからの活躍を心よりお祈り申し上げます。

ようこそ明高へ!!

母校に着任して



教頭 森本 克茂 (高28回)

この度の異動で母校に着任しました。校舎は変わりましたが、何十年ぶりかで、校庭の木々を見るとき思わず目頭があつくなりました。長年神戸地区で英語教師等をしていて、明石の事情には不慣れですが、母校で勤めさせていただく重責を感じています。始業式で生徒(後輩)の皆さんが歌う明高校歌に感動を覚え、それ以来、毎朝車の中で明高、明中の校歌を歌いながら通勤しています。

ここ数年NKHの朝ドラをビデオ録りして週末に見ています。困難に出会いながらも、人とのつながり、絆で課題を乗り越えていくヒロインの姿に元気をもらっています。教頭として人とのつながりを大切に、本校発展のために微力ではありますが、ベストを尽くします。どうぞよろしくお願いいたします。



4月は新たに來られた先生方との出会いの時です。明高では開校以来、『自彊不息』(自ら努めてやまず)の精神が受け継がれ、「自分で考え、行動する」ことを重視する学校です。従って、「マニュアル」が少なく、最初は不親切に感じられるかもしれませんが、先生方の経験を存分に活かしていただき、在校生(後輩)へのご指導よろしくお願いいたします。

人

事

異

動

☆ 転退任 ☆

上河 創 先生 [教頭] (三木東高校へ)

佐伯 敏裕 先生 [芸術] (退職)

丹野 孝広 先生 [英語] (退職)

木下 淳一 先生 [国語] (県立尼崎高校へ)

大谷 弥生 先生 [国語] (兵庫工業高校へ)

土井 一弥 先生 [体育] (県教委へ)

曾根麻由美 先生 [体育] (神戸甲北高校へ)

谷岡 寛子 先生 [数学] (愛知県へ)

内田 雄三 先生 [理科] (西脇高校へ)

福田 尚子 先生 [事務] (姫路聴覚特別支援へ)

長松 洋司 先生 [事務] (神戸商業高校へ)

林 裕子 先生 [体育] (体育協会へ)

☆ 着任 ☆

森本 克茂 先生 [教頭] (伊川谷高校より)

佐伯 敏裕 先生 [芸術] (明石高校より)

丹野 孝広 先生 [英語] (明石高校より)

津國聡一郎 先生 [国語] (神崎高校より)

松井 友子 先生 [国語] (兵庫工業高校より)

寺井 雄 先生 [体育] (相生産業高校より)

下間 賀世 先生 [体育] (三木東高校より)

加野 貴啓 先生 [数学] (新採用)

林 友哉 先生 [数学] (明石高校より)

羽深 健治 先生 [理科] (新任)

山田 絵美 先生 [事務] (吉川高校より)

田中 裕保 先生 [事務] (武庫荘総合高校より)

細目まどか 先生 [体育] (新任)

チャレンジ明高!! 25年度進路結果

進路指導部
丹野孝広

26年度入試は、複数志願制入学生第4期66回生が受験しました。1期63回生からの変化がどうだったのか気になるところで。そして、来年度から始まる学区再編後の、明石学区の進路状況を予想するうえでも、今年度の進路結果が気になります。明高66回生の進路結果はどうだったのか、今後の変化を感じ取ってみましょう。

まず、就職関係ですが、就職者数の数が、総選時代より激減しています。その傾向は今年度も継続しました。民間就職者数は、22年度6名↓23年度9名↓24年度5名↓26年度3名と変化しました。それに対して、公務員就職者数が兵庫県警1名となり、当初は、その公務員の合格者数が増加するのではないかと予想しましたが、そうはなっていません。

平成24・25年度進路実績表

大学名	24年度	25年度
【国立大学】		
北見工大	1	
筑波大		1(1)
上越教育大		1
富山大	1	
福岡大	1(1)	
信州大	2	
滋賀大	1	
大阪大	2(1)	1(1)
大教大	1	3
神戸大	1	2
兵庫教育大		1
奈良教育大		2
奈良女子大	1	
和歌山大	1(1)	
鳥取大		3(2)
岡山大	3	
広島大	1	
山口大	1	2(1)
徳島大	1	1
香川大		4(1)
愛媛大		1(1)
高知大	2	2
鹿児島大	1	2(2)
鹿屋体育大	1	
合計	22(3)	26(9)

大学名	24年度	25年度
【公立大学】		
岩手県立大	1(1)	
秋田公立美大	2(1)	
埼玉県立大	1	
長岡造形大		1
金沢美術工芸大	2(2)	3(2)
石川県立大	1	
静岡文化芸大	1	
愛知県立芸大		1(1)
京都府立大	1(1)	
大阪市立大		1
大阪府立大	1	
兵庫県立大	11(1)	13(1)
神戸市外大	1	1
新見公立大		1
島根県立大	2	
尾道市立大	1	1
県立広島大	1	
広島市立大	1	2
下関市立大		1
香川保健医療大	1	
高知県立大	1	
高知工科大		2
沖縄県立芸大	1	
合計	30(6)	27(4)

国公立大学合計	52(9)	53(13)
---------	-------	--------

()内は過年度生

【私立大学】		
青山学院大	1	1
多摩美大		7(4)
武蔵野美大	2	6(6)
駒澤大	2(1)	
東海大	1(1)	
東京農大		2(2)
法政大	1(1)	1(1)
都外大	2	
京都産大	6	8(1)
京都女子大	2	
京都精華大	11	19(2)
京都造形芸大	1	15(1)
同志社大	11(4)	13(3)
同志社女子大	2	1(1)
佛教大	4	5
立命館大	11(4)	4
龍谷大	5(4)	13
大阪経大	18(3)	10(2)
大阪芸大	3	4(1)
大阪工大	3	5(1)
大阪電気通信大	6(1)	8
関西大	37(2)	39(7)
関西外大	6	2
近畿大	30(3)	41(15)
関西学院大	27(2)	44(3)
甲南大	70(3)	80(5)
甲南女子大	15	5
神戸学院大	50(4)	46
神戸芸術工科大	8	8
神戸女学院大	9	14
神戸女子大	16	17
神戸薬大	2	3(1)
松蔭女子学院大	4	19
神戸親和女子大	19	4
武庫川女子大	17	25
その他	112(5)	105(13)
合計	514(38)	573(69)

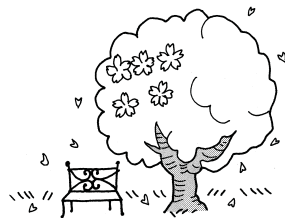
文部省管轄外合計	0	0
----------	---	---

短期大学合計	22	52
--------	----	----

専門学校合計	48	42
--------	----	----

就職・公務員合計	5	4
----------	---	---

合格 おめでとう!!



進路関係では、昨年度の65回生とほぼ同じ「善戦・惜敗」という結果になりました。国公立大学合格者数23年度77名↓24年度52名↓25年度52名となりました。

50台を維持できたことは大きな安堵でした。総選時代の国公立大合格者数が30名前後であったことから考えると、「善戦」と言えるでしょう。しかし、23年度の77名と比較すると、まだまだ挽回する余地を残していると考えられます。特に、「京阪神大」の結果が、22年度8名↓23年度5名↓24年度3名↓25年度3名となつています。入学時における、成績優秀者数の減少が如実に反映されていますが、10名以

上の結果が出ることを、現段階での目標としなければなりません。「関関同立甲」といった難関私大への合格者数は健闘しました。5大学の合格者合計が、22年度163名↓23年度194名↓24年度156名↓25年度180名と盛り返しました。同志社大が11名↓13名、関西大が37名↓39名と前年度を上回ったのは、果敢に挑戦した結果だと思えます。立命館大11名↓4名と減少しましたが、そもそも受験者数の少なさが、そ

このように、卒業生たちは、短期大学、専門学校も含めて、自分たちの進路実現に向けて真剣に努力してくれました。今後期待できる有意義な成果を後輩たちに残してくれました。

このように、卒業生たちは、短期大学、専門学校も含めて、自分たちの進路実現に向けて真剣に努力してくれました。今後期待できる有意義な成果を後輩たちに残してくれました。

伝統



3年間を振り返って

男子ハンドボール部顧問

寺口吉行

男子ハンドボール部

伝統ある明石高校に赴任し、そして男子ハンドボール顧問となり3年が過ぎました。近年の女子ハンドボール部の輝かしい活躍に追いつき、追いつき越え気持ちで取り組んできました。平成24年度、夏の近畿大会には出場できましたが、他の大会では顕著な成績を修められず悔しい気持ちでいっぱいです。

25年度県総体ではベスト4をかけ、強豪高砂南高校と対戦しました。ゲーム分析を徹底して臨み、最後までつれたものの2点差で敗退。同年県新人大会ではベスト4をかけた試合で川西緑台高校に延長戦の末、敗れました。接戦に勝てない、この差をどう埋めるか、我々に何が足りないのか、選手と共に考え、次につなげられるよう日々努力しています。

部員は着実に進歩していると思います。日頃から部員には「人間的成長なくして技術の進歩なし」という野球解説者野村克也氏の言葉をかけています。礼儀、礼節を重んじること、日々の学校生活や学習に対する姿勢、支えてくれる方々への感謝の気持ち、周囲への気配り、責任感や最後まであきらめない気持ちなどこれらのことが部活動を行う基礎となり、コート上で現れることを学んでくれています。そして私自身も常に学ぶ気持ち忘れず

成長していきたいと、心がけています。平成27年度から3年間、春の全国選抜大会が兵庫県で行われます。何とか地元開催の全国大会出場を果たしたいと思いません。

23年度には新たな「明高ハンドボール部OB会」が発足し、現役の生徒に対し多くのOB・OGの方から支援をいただいています。校門横にある「自彊魂」と書かれたハンドボール部の石碑に恥じぬよう、そして明石高校の精神「自彊不息」の気持ちを忘れることなく努力し、一歩ずつ成長していきたいと思えます。

平成25年度東播高等学校

サッカー新人大会を振り返って

サッカー部顧問

久保田 毅

サッカー部

延長後半終了間際、左コーナーキックを受けて、ヘディングでたたき込まれたボールがゆっくりと相手ゴールに吸い込まれた。1-0。明石高校サッカー部史上、初めて東播地区で第3位を勝ち取り、県大会に出場する権利を得た瞬間であった。

明石高校に転勤して2年目となる。しかし明石高校というのは私が教員になって27年間、一度もサッカー専門の教師が顧問を担当していない、いわばサッカー不毛の学校であった。赴任当初の私の目には厳しい練習に耐えるだけの力を持った意識の高い選手が少なく、これまで指導したチームのレベルとのギャップが大きかった。さらに3年生が引退した今年度は、選手数が2年生5名、1年生12名のたった17名となり、新チームとしては、あまりにも少人数で、しかも1年生が戦力の中心となることは非常に厳しいものであった。

ところがこの厳しい状況がかえって良かった。1年生には「7、8人がレギュラーになるので、練習や試合では1年生扱いをしない!」と話し、常にレベルの高さを求め、練習試合では相手チームの人数に合わせたレギュラー戦サブ戦合わせて3試合分をこなすことが当たり前となった。夏休みの遠征では連戦で怪人も出て、13、4人ほどで3試合を乗り切ったこともあった。その中で1年生とは思えないスタミナや、多くの試合をこなした経験値の高さ(場慣れ)が選手ひとり一人に身に付いていき、各個人の能力を大きく向上させることとなった。前年度のチームは同点なら最後に突き放され、リードしていても最後に追いつかれ、PK戦では敗れ、と勝負弱さが目立っていた。しかし今年度のチームは同点からは最後に突き放し、リードしてもとどめの得点をとり、PK戦では勝利する、など確実に勝負強さを発揮していった。これは何より1年生主体の少人数のチームであることで、危機感を持った選手ひとり一人が必死に練習や試合に取り組んだことの結果であろう。加えて今年度入部したクラブチーム出身の3名のサッカーに對するこだわりや「何が何でも負けたくない」という精神的な強さがチームを引っ張り、他の選手に非常に良い影響を与えたことも大きかった。

東播サッカー新人大会では、県1部リーグに所属するトナメント第1シードの小野高校と2回戦で戦う、というこれ以上ないほどの厳しいブロックに入った。その小野高校戦では試合開始から終了まで守備に奔走し、ほとんど攻めることができない状況であったが、粘り強く耐え切り、PK戦では1年生GKが相手選手キックを2本止め、感動的な勝利を得た。準決勝でも今大会優勝した明石商業

に對し、0-0のまま延長後半に失点するまで粘り強くゲームをコントロールし、敗れはしたが、他の指導者から明石高校のゴール前には何か見えない壁があるようだと言われるほどであった。準決勝敗戦後、中1日をおいての3位決定戦は選手の疲労も激しく、レギュラーに怪我が2名も出て、万休すかと思われたが、選手は最後まで運動量を落とすことなく走り切り、またしても延長戦を戦い、冒頭で述べたような劇的な勝利を収めることができた。試合終了後、選手たちはこれまでの苦しさで耐えて本当に良かったと実感したようであった。

しかし強くなればなるほど相手から研究され、勝者と敗者の立場が入り替わるのが勝負の世界である。この大会で結果を出したからといって、次も良い結果になるとは限らない。むしろこれからの方が厳しいことや難しいことが多いだろう。「この今」から「次」に向かって技術的にもフィジカル的にも戦術的にも、そして精神的にもさらに高いレベルを目指してチャレンジしなければ「明日」はない、という気持ちを強く持っている。

平成25年度を振り返って

女子ソフトボール部顧問

白神 信行

女子ソフトボール部

「勝負弱い」私が一年間を振り返って真っ先に思ったことだ。物にあふれ、環境に恵まれ、不自由することの少なくなった現在では、誰もが自分を追い込んで鍛えることをあまり必要とされていなくてもいいかもしれない。だが、今一度自分自身を振り返ってほしい。勝負したか? 実力を出し切ったか? 弱音を吐いてい



第57回 兵庫県高等学校総合体育大会 ソフトボール競技

9-11

ないか？言い訳してないか？心のどこかで諦めていないか？困難から逃げたてはないか？やりきらずに飽きてしまっただけではないか？ここに挙げたものは全て失敗の条件である。「それで君たちは満足できるのか？」もし、それぞれの者が自身自身の夢を叶えたいなら、これら乗り越えなければならぬ。だからこそ部活動で「昨日の自分を超えよう」とあがき続けること」に挑戦しようと思う気持ちを育てたい。私はそう思って部活動に取り組んでいる。

今年度の戦績を振り返ってみると、春季東播大会では、加古川西高校に思うようにやられ、1回戦で敗退。悔しさをバネに臨んだ夏の総合体育大会では、宝塚西高校、明石南高校と2戦連続のリード勝ちをおさめたものの、但馬ドームでの神戸常磐女子高校にヒット1本に押さ

え込まれてのリード負け。新チームとなり挑んだ東播新人大会では、なんと5位に食い込むことができ、兵庫県新人大会に駒を進めたが、1回戦で神戸星城高校に敗れるという結果に終わった。しかも、この試合については5回まで1対2と1点差で食い下がっていたにもかかわらず、後半に自滅してのリード負けである。このように、互角もしくは格上のチームに対しては実力を発揮できない。特に先制点を取られると、そのままずると相手のペースに飲まれてしまう。

勝負強くなるためには、どうしたら良いのか。ミーティングを繰り返して、まずは部員ひとり一人に役割を与えることにした。風紀・整備・学習・データといった役割に分かれ、部内での働きを明確にした。その結果、「第一ボタン、リボン、スカートなど服装を常に正しておく」「グラウンド整備をしっかりと丁寧に、ケガをなくす」「勉強をおろそかにしない」「対戦相手のデータを取り、研究する」などの各役割が複数の目標を掲げ、徐々に自発的に行動できるようになってきた。また、休日の練習場所確保のために朝7時半から練習を開始しようと思分たちで決めたことは、うまくなりたいと思う気持ちが以前に増して強くなってきた証ではないかと考えている。

まだまだ結果としては表れていないが、今年のチームは県大会で上位を狙えると感じている。ピッチャーがしっかりと相手打線を抑え、バッカーがそれをフォローし、途切れない打線を奪う。それが不可能でない楽しみなチームである。あとはそこにどれだけ「勝負強さ・負けん気の強さ」が絡んでくるか。「負けてたまるか!!」という気持ちが常に相手を上回るようになれば、可能性はぐっと増してくる。忘れないでほしい。「昨日の自

分を超えよう」とあがき続けること、それを本気で積み重ねていけば、必ず道は開けるということを。また、私自身も忘れてはならないことがある。「部活動は人間形成の場」ということを。それを常に心にとめて、部活動の指導に当たらないければならない。私はこの文章を書くことで改めてそう誓った。

国民体育大会 山岳競技

3年 山下 風

去年の10月に開催された東京国体。そこで僕は、リード競技で6位、ボルダリング競技で7位と、2つの表彰状を取ることができました。

今回の国体は僕にとって2度目の国体だったので、去年の岐阜国体では緊張やそれによるケアレスミス等により全く自分の力が出せなかったため、今年こそは自分の登りをしようという気持ちで競技に臨みました。

ワンダーフォーゲル部

山岳競技はロープをつけて15〜20mの高い壁を登るリード競技と、ロープはつけず3〜5mの低い壁を登るボルダリング競技という2つの種目にわかれています。国体ではリード競技から始まり、リード競技もボルダリング競技もより高くまで登った人が勝ちです。ですが、ボルダリングは時間内であれば途中で墜ちてしまっても何度でもトライできるので、対し、リードは1度落ちたらそれでおし

まいの1回勝負です。去年のように緊張でケアレスミスをしたら、もう挽回するチャンスすらありません。ですが、「気楽に、競技を楽しもう！」と何度も自分に言い聞かせ、なんとか緊張せず、競技を楽しむことができました。その結果、予選を突破でき、6位に入ることができました。

この調子でボルダリングでも自分の登りができました。ボルダリングではフィジカル面の弱さが足を引っ張りましたが、なんとか7位に入ることができました。今回の国体は「緊張せずに自分の登りをする」という目標は達成できたので、良かったかなと思います。

しかし、僕は今回の国体の競技成績、自分の実力を出し切ったにも関わらず6位と7位。ということには、満足はしていません。来年はもっと上に行くために、今回の国体ではしっかりと見えた自分の弱点、特にフィジカル面の弱さをこの1年で改善していきたいと思っています。これからも頑張っていきたいと思いますので、応援よろしくお願いします。



平成25年度決算報告 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

1 一般会計		(単位：円)	
(収入の部)	予算額	決算額	
1 平成24年度繰越金	3,920,194	3,920,194	
2 平成25年度年会費納入金	5,300,000	5,530,000	
3 財政調整基金より	4,200,000	4,200,000	
4 雑収入(ご寄付、銀行利息等)	10,000	265,333	
合計	13,439,194	13,924,527	
(支出の部)	予算額	決算額	
1 会議費(総会・理事会・本部役員会等)	500,000	295,605	
2 事業費(母校・学年等への支援・広報活動等)	9,970,000	8,185,154	
3 事務費(事務局・維持管理等)	2,900,000	2,375,934	
4 予備費	69,194	0	
5 次年度繰越金		3,067,834	
合計	13,439,194	13,924,527	
2 基金		(単位：円)	
	(収入の部)	(支出の部)	
① 財政調整基金			
平成24年度繰越金	2,001,170		
在校生納入	4,284,400		
銀行利息	691		
一般会計へ繰り出し		4,200,000	
次年度繰越金		2,086,261	
合計	6,286,261	6,286,261	
② 90周年記念事業特別基金			
平成24年度繰越金	1,810,783		
ご寄付	481,500		
90周年同窓会主催事業費		2,566,014	
実行委員会より返金・銀行利息	589,769		
剰余金		316,038	
合計	2,882,052	2,882,052	
③ 自彊セミナー特別基金			
平成24年度繰越金	3,835,579		
銀行利息	226		
活動費(大学見学バス借上げ料等)		313,520	
次年度繰越金		2,522,285	
合計	2,835,805	2,835,805	
3 監査報告			
平成25年度の決算について、会計帳簿および関係書類を監査照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。			
平成26年4月3日			
	監事	前川 利一	印
	監事	加護谷榮章	印

明高25回生還暦同窓会(案内)

3年間お世話になった先生方を囲み、クラス・クラブ仲間と楽しいひと時を過ごしたいと思います。
多数の参加をお待ちしています。
(案内はがき発送予定)

日時：平成26年9月14日(日)

12時30分 集合写真 13時 開宴

場所：西明石 ホテルキャッスルプラザ

会費：10,000円

25回生学年同窓会幹事一同
(問合せ先 078-911-4376 本城)

事務局よりお願い

- ① 転居されたときには新住所をお知らせ下さい。
- ② お亡くなりになった方の連絡については、間違い防止のため、ご逝去の年月日を必ずお知らせ下さい。
- ③ 学年全体の同窓会を開催される場合、支援金をお渡しします。代表者の方は事務局へご連絡をお願いします。
- ④ 部活動の同窓会にも、支援金を支給する規定があります。詳細は事務局へお尋ね下さい。
- ⑤ 事務局が常駐でないため、電話が繋がらないことも多いと思います。住所変更等の連絡は、ファックスが一番確実です。よろしく願います。
- ⑥ 最近、同窓会を利用した「振り込めサギ」の手口もあると明石警察署から聞いています。十分に警戒して下さい。
- ⑦ 同窓会運営の資金源である年会費の納入に、ご協力をお願いします。手数料は、窓口は130円、ATMは80円です。お手数ですがATMのご利用をお願いします。

平成25年度事業報告

Table with 2 columns: 月 (Month) and 内容 (Content). Lists activities from April to March, including general assemblies, seminars, and exhibitions.

お悔み (Sincere Apology) section. Lists names and dates of members who passed away, categorized by school type (e.g., 中職, 旧職, 現職).

同窓会役員 (Alumni Officers)

Table listing alumni officers for various roles: 会長 (President), 副会長 (Vice President), 参与 (Participating), 常任理事 (Regular Council Members), 監査 (Auditors), 顧問 (Advisors). Includes names and their respective years of graduation.



母校の飛躍発展に 同窓会の協力を!!



前同窓会会長 草川 雄二 (高11回)

草木は芽を吹き生物すべてが躍動の時節となりました。

同窓(自彊)会員の皆様にはご健祥の事と思えます。また平素は、自彊会にご支援とご協力を賜り誠に有難く思っております。

この度私は、同窓会(自彊会)会長を退任し、竹内信六氏に引き継ぎを致しました。四年半の在任中は会員皆様の温かいご支援と共に、また同窓会役員の方々のご協力のもと学年同窓会、支部・職域総会、懇親会など会員相互の親睦の推進、母校への支援、会則の改正、会報誌の改編と内容充実等々に取り組みましたこと、満足とは申せませんが任務を遂行できました事、心から感謝申し上げます。昨年は学校創立90周年記念行事、また一環としての諸行事が催されましたが、沢山の方々のご協力のお陰をもちまして全ての行事が盛大に、かつ成功裡に終える事が出来ました。私は、記念行事実行

委員長として人生最大の喜びでございます。

愈々、来年度(平成27年)の入試から県立高校の学区が16学区から5学区に再編されます。学区を広げ各校に特色を持たせて、選択肢を拡大する改革です。

『将来日本の高い科学技術を支えるには、高校時代から高い学力が不可欠。子供たちのチャンスを増やし、夢を実現しやすい。』との検討委員長談。

明石高校も校長先生を中心に、学校挙げて特色ある学校創りに取り組まれております。幸いにも、新会長の竹内氏は、長年同窓会の副会長を務められ、その間、母校飛躍のための支援策に十分に力を注がれると共に、私の片腕となってお尽力下さり、同窓会運営に精通された方です。また同窓会の発展に裁量を発揮されると確信しております。私同様に支援のほど宜しくお願い申し上げます。

在任中に、私に賜りましたご支援、ご厚情に深く感謝申し上げます。ご挨拶と致します。

編集後記

今回の表紙は母校の航空写真としました。また、昭和14年頃の校舎配置を手書きで記録された資料が同窓会資料館に保管されていたので、それも掲載しました。それぞれの年代で、ご自身が学ばれた明中・明高を思い出されることでしょうか。

私にとっては左ページ上の写真に思い出が詰まっています。木造の1号館から3号館に代わって鉄筋の校舎が完成した頃です。写真では中部講堂が完成し、お墓の横にあった旧講堂は撤去されていますが、よく見ると3号館だけ元の位置に残っています。この3号館はこの後どうなったのでしょうか。実は旧講堂の場所、すなわち山内記念図書館の北側へ移動していったのです。校舎が移動!? 当時運動場西端の教員官舎に住んでいた小学生の私は、このミステリーの一部始終を見ていました。三角池の南横にあった3号館は解体されることなくローラーに載せられて、建物の西端に繋いだワイヤーを人力ウ

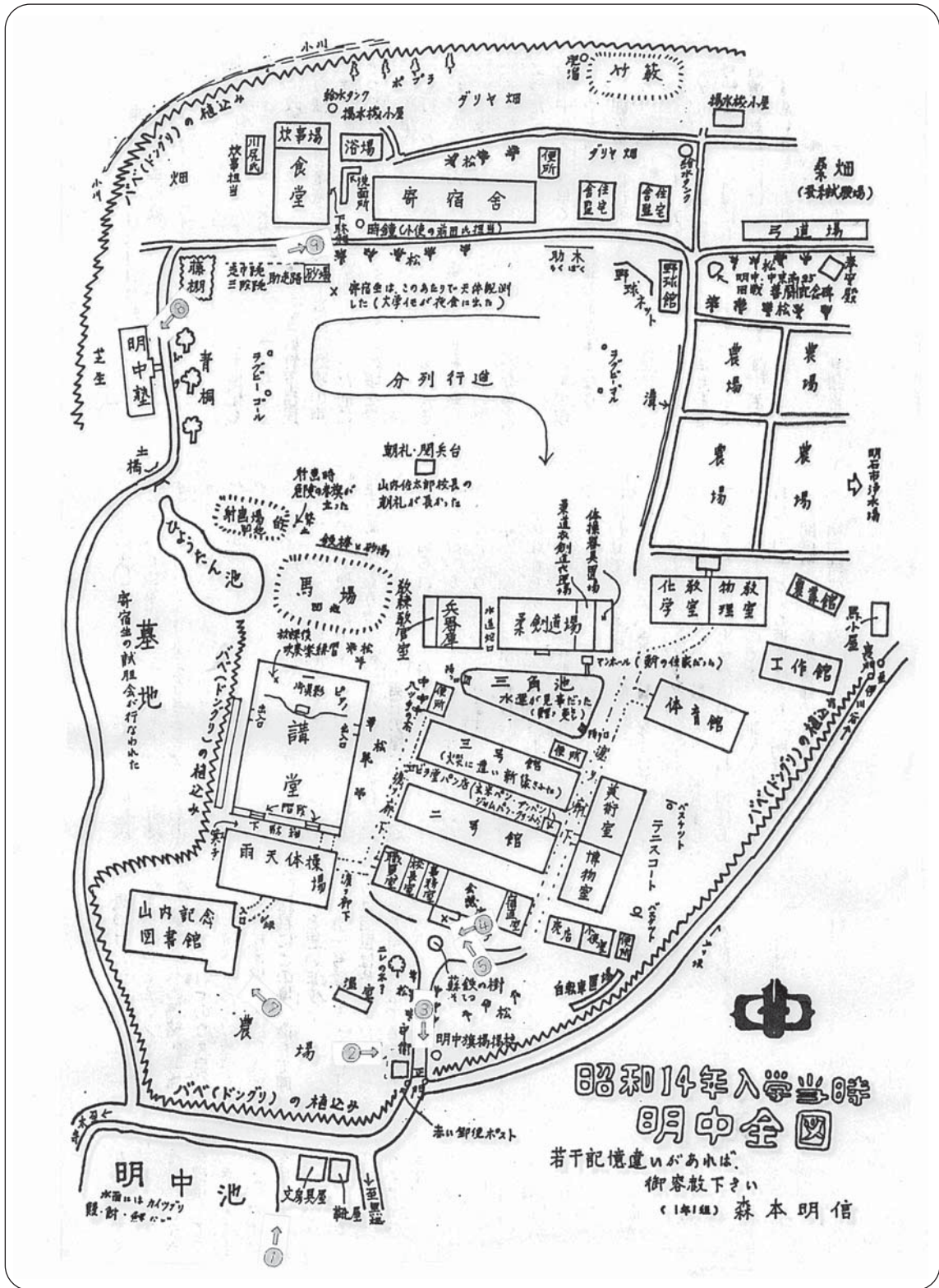
インチで曳かれ、約2mほど低い運動場のサッカーゴールあたりまで材木で組まれたスロープを下り、そこで後方をおよそ45度方向転換し、今度は東端を引っ張って、新しい場所へ動いて行きました。門外漢なので正確さには欠けるが同様の工法は阪神・淡路大震災で破損した明石城の東の櫓を一旦北へ移動し、城壁を修復した後元位置に戻された際に見ることができました。

現代では特に歴史的価値を持たない一般的な木造建造物を解体せずに移動して再利用するなど考えられません。本号表紙ウラの地図に依れば3号館は火災に会い立て替えたとなり、他の校舎より新しかったと理由もあったのでしょうか、世の中が今ほど裕福でなかった当時はものを大事にしていたのだな々と今更ながら感心します。

旧3号館は新しい場所でしたらばくろのあいだ部室として活用されたと思えます。また1階には卓球台が置かれた部屋があり、そこでよく卓球をして遊んだのは楽しい思い出です。

(卓)

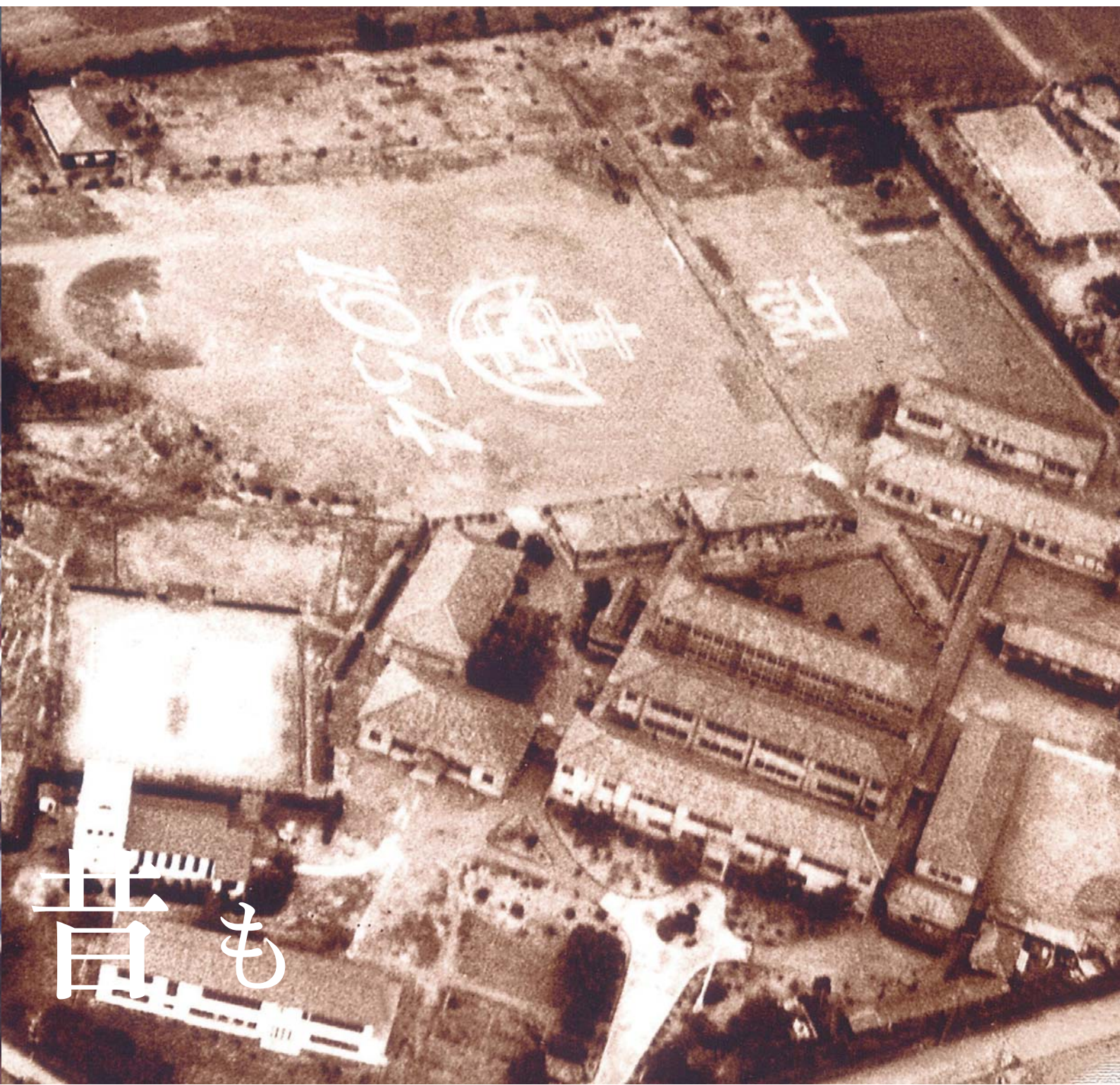




昭和14（1939）年ごろの明石中学の全体配置図です。中学17回の故森本明信氏が描かれたもので、母校資料館に保管されていました。戦前の明中の全貌を伝える貴重な資料で、資料館の棚の中に置かれているだけでは余りにももったいないので、今回掲載させていただきました。

仔細に見れば興味深い点が多々あります。運動場が拡張されるずっと前で、北に隣接する浄水場との間には農地があったり、明中池角の川尻屋さんの場所は靴屋さんだったり、その川尻さんは当時食堂の炊事担当で、運動場西の食堂の南におられたようです。

この図の作成者の森本氏のご尊父が明中の生物の教諭で、弟様の正之氏（中20回、後に明高の教諭）とともに野球部のネットの西側の官舎に住まわれておられました。余談ながらこの官舎は昭和30年代に食堂の南側に移設され、筆者はそこで育ち、家の柱に森本兄弟の背比べの痕跡があったことを記憶しています。（佐々木記）



発行：県立明石中学校
県立明石高等学校
同窓会（自彊会）
明石市荷山町1744番地
078 (913) 6554
印刷：（有）木下ブンセイ出版印刷